

記憶

<p><b>記憶</b>：過去の体験を保持し日に再現して利用する機能          記憶には「忘却」という特性がある。          通常の記憶は「<b>記録</b>」「<b>保持</b>」「<b>想起</b>」の3つの段階。          記憶の情報処理モデル「<b>符号化</b>」「<b>貯蔵</b>」「<b>検索</b>」の3段階</p>	<p><b>ワーキングメモリ</b>＝短期記憶は保持機能と処理機能がある          バドリーとヒッチが提唱 作動記憶/作業記憶ともいう。          記憶保持の機能：15秒-30秒程度          情報処理の機能：情報の検索、分析、統合を行う          長期記憶の情報にアクセスもする。          音声情報は「<b>音韻ループ</b>」で処理する。          視覚情報は「<b>視空間スケッチパッド</b>」で処理する。</p>
<p><b>感覚記憶</b>：五感でとらえた情報。（視覚/聴覚/触覚/味覚/嗅覚）          視覚：アイコニックメモリ：1秒以内 ※視覚より聴覚の方が長く記憶          聴覚：エコニックメモリ：4-5秒          注意を向けられなければ、符号化されずに消失する。  <b>リハーサル</b>：繰り返し復唱や想起する。  <b>音韻符号化</b>＝記憶に残す形に変えること。＝コード化          感覚記憶→符号化→入力（インプット）→短期記憶</p>	<p>ワーキングメモリの容量限界説。：容量に限界がある  <b>トレードオフ</b>：容量を超えた場合、保持か処理の一方が犠牲になる。  <b>外国語副作用</b>：不慣れな言語を使うと「一時的」に思考が低下する。</p>
<p><b>二重貯蔵モデル</b>：短期記憶+長期記憶          アトキンソンとシフリンが提唱          感覚記憶で注意が向いたものが符号化されて短期記憶へ入力          短期記憶には15秒-30秒程度保持される          短期記憶に留める情報量は「7±2チャンク」程度とされる。  <b>チャンク</b>：人間が情報を知覚する際の「まとまり」のこと。          ミラー提唱。「く・さ・も・ち」4つ。「草・餅」2つ「草餅」1つ          ミラーのマジカルナンバーと呼ばれる          チャンキング：意味のあるまとまりにして覚えること。          短期記憶から[転送]されたものが長期記憶に保存される。          長期記憶は検索で出力できると覚えている。          長期記憶で検索しても出力できないと忘れたという事。</p>	<p><b>ワーキングメモリ容量測定テスト</b>          リーディングスパンテスト/リスニングスパンテスト          ワーキングメモリは幼児と高齢者の容量は小さい。          ワーキングメモリは男女間の差は無い</p> <p>ワーキングメモリ内の気づき（シュミット）とインテイク（内在化）          感覚記憶→[入力]→[認識＝気づき][理解]→[インテイク]→[統合]→アウトプット  <b>インテイク</b>＝認識、理解されたものが内部に取り込まれる。取り込みの意味。</p> <p><b>二重符号化理論</b>：情報処理をする時、「言語システム」と「イメージシステム」で処理を行う。抽象概念はイメージが困難。言語システム処理だけでは忘れやすい。</p> <p><b>シャドーイング</b>：ワーキングメモリを利用する言語訓練方法          モデル音に遅れないように聞きながら再生する。          学習者のレベルより少しやさしいものを練習する          短い文より長い文の方が練習しやすい          スクリプトは暗記しない。</p>
<p><b>プライミング効果</b>：暗示的リキャストに関連する          先行刺激（プライム）の処理が後行刺激（ターゲット）の処理に影響を及ぼす現象          果物の話題の後、黄色と言えば、バナナが連想される。</p>	<p><b>記憶ストラテジー</b>：<b>レベッカ L. オックスフォード 学習ストラテジ</b>  <b>生成効果</b>：自分で問題を作成し解いたりする。  <b>体制化</b>：関連する情報をまとめて整理する  <b>精緻化リハーサル</b>：情報を既有知識と関連付けて覚える→長期記憶へ[転送]  <b>維持 リハーサル</b>：忘れないように復唱して、ワーキングメモリ内に保持</p>
<p>Just と Carter モデルのワーキングメモリ          ワーキングメモリは「保持」と「処理」の2重構造とする</p> <p><b>コロケーション</b>：高い確率で<b>共起</b>する語彙。 階段から・・・落ちた。</p>	

記憶

<p><b>長期記憶</b>=ワーキングメモリで精緻化リハーサルされた情報が[転送される] 無限の容量を持つ永続的な記憶。</p>	<p><b>手続き化</b>=宣言的記憶が[手続き化]によって、手続き記憶になる。 情報を迅速に処理できるようになる。</p>
<p><b>宣言的記憶</b>: 知識に関わる記憶。明示的知識=宣言的知識=顕在知識 言語化可能 <b>意味記憶</b>: 言語の意味や知識などの記憶。「(暗)母語語彙」文脈は無い。 形式スキーマ 「ワインは日本酒と同じ醸造酒だ」 <b>エピソード記憶</b>: 思い出のような記憶。「(明)第二外国語の語彙」文脈が残る 内容スキーマ 「昨日友達と沢山ワインを飲んだ」</p>	<p><b>自動化</b>=外国語を流暢に使うために、記憶の中の情報を努力無しで思い出す状態。 情報を努力なしに処理できるようになる。</p>
<p><b>手続き的記憶</b>: 方法に関わる記憶。暗示的知識=手続き的知識=潜在知識 言語化不可 技能: 自転車に乗る、泳ぐ、発音する。「(明)習ったお辞儀」「(暗)母語発音」 プライミング: 先行刺激 ※手続き的記憶=動作に関わる。「発音」 条件付け: 反射行動 ※宣言的記憶=記憶に関わる。「語彙/文法」 慣れ: 自動化</p>	<p>20程度の無関係の語の自由再生記憶実験。系列位置効果 <b>初頭効果</b>: リスト初頭の再生率が高い=長期記憶: 提示速度で再生率が変化 <b>親近性効果</b>: リスト終末部の再生率が高い=短期記憶: 直後再生=再生率が高く親近性効果が認められる。 遅延再生=親近性効果消失。</p>
<p><b>メンタルレキシコン</b>=心的辞書 記憶に保存されている言語の総体。 50音やアルファベットでは並んでいない。 個人差があり絶えず変化拡大している。 バイリンガルの場合L1とL2に対応する辞書を持つ。 音韻的/意味的/統語的/形態的/特徴に関連付けられたネットワーク</p>	<p><b>エビングハウスの保持曲線/忘却曲線</b> エビングハウス: ドイツの実験心理学の先駆者 無意味綴りの完全暗記実験にて、学習直後に急激に下降して、その後は一定の水準を保つ下降曲線となった。適度な復習で忘れにくくなる。節約率。</p>
<p><b>キーワード法</b>: 心的辞書研究者の提唱。記憶ストラテジー。 発音と視覚的イメージで構築する。「町をマーチ (March) する」と覚える</p>	<p><b>スキーマ</b>: 長期記憶に貯蔵された構造化した知識の集合体。既有知識/背景知識 スキーマ理論=スキーマ+フレーム+スクリプト (シャンクとエイベルソン) 形式スキーマ: 文章の形式、修辞、構造についての既有知識。意味記憶 ボトムアップ処理に使われることが多い 内容スキーマ: 話題や文化背景についての既有知識。エピソード記憶 トップダウン処理で使われることが多い。</p>
<p><b>ロゴジェン</b>: 心的辞書内の単語を認知するシステム。 ロゴジェンモデル: 高頻度の単語は認識されやすい。=「頻度効果」 先行して文脈を提示するとロゴジェンが活性化される。スキーマ</p>	<p><b>想起</b>: 保持されている記憶が呼び起こされること。 再生: そのまま再現される 再認: 経験を「経験した」と認識できること。 再構成: 経験をその要素を組み合わせて再現する事</p>
<p><b>メタ記憶</b>: 記憶についての記憶。知っているという記憶=既知感 <b>既知感 (FOK)</b>: 知っていることは分かるが、言葉で表現できない。「メタ記憶」 再認テストの成績との相関性が高い。 TOT現象は既知感が強く表れた現象である。</p>	<p>言語処理 <b>トップダウン処理</b>: 既有知識から予測や推測を行い、仮説検証しマッチングする。 <b>ボトムアップ処理</b>: 部分的な情報を積み重ねて情報全体を理解する。 <b>相互交流モデル</b>: ボトムアップとトップダウンを適時組み合わせて理解する</p>
<p><b>TOT現象</b>: 舌の先まで出かかるが、思い出せない現象。 <b>シソーラス</b>: 語句を意味のよって分類した語彙集</p>	<p><b>処理可能性理論</b>: ピーネマン: 教授可能性理論-段階を超えて教えても効果が無い 学習初期はワーキングメモリ容量制限で、複雑な言語処理はできない。自動化が進むと高度な言語処理が可能になる。処理可能な順序でのみ習得ができる。</p>